セットアップがスピーディーな

カートリッジ メカニカルシール

静止型アウトサイド式

カートリッジ
メカニカルシール

株式会社 ユーコウ産業

静止型アウトサイド式
カートリッジ
メカニカルシール

全く新しい
カートリッジ式
メカニカルシー

スプリングなど複雑なパーツが大気側にあり、
接液側はシンプルな構造のため、
細部に液溜りがなく、
スラリーを含む液にも使用できます。

■パッキン材

- ●バイトン（標準）
- ●ネオプレン
- ●エチレンプロピレンゴム
- ●パーフロ
- ●カルレッツ

※標準母材SUS316その他チタン、
ハステロイも製作できます。

■端面組み合わせ

- ●SIC・カーボン（標準）
- ●SIC・SIC

■使用範囲

使用液	母材及びパッキン材の範囲
温度	パッキン材の範囲
圧力	0.7MPa以下
回転数	周速25m/sまで

カートリッジ型メカニカルシールと従来型メカニカルシールの違い

■カートリッジ型メカニカルシール

●シャフトサイズが同一サイズならば、すべて共用できるため在庫数が少なくてすむ。

●取り付けが簡単なため、初心者でも取り付けが可能。

●取り付けが簡単なため、組変え時間が短時間ですみ生産に支障が出にくい。

●損傷しやすい部品が、カートリッジ内に組み込まれているため、組み込み時の損傷が少ない。

●グランド等からカートリッジ式に変更する場合、スタッフィングBOX等の改造を要しない場合が多い。

●上記総合して在庫数の減少、組みやすさ、改造の有無で、はるかに合理化が計れます。

■従来型メカニカルシール

●シャフトサイズが同一でも、メカニカルシール固定型式が多品種のため、多品種の在庫が必要で管理が繁雑になる。

●納期が3～4ヶ月もかかる型式も多数あるため在庫管理と納期管理が必要になる。

●型式により、組み込み方、取り付けサイズが異なるため、熟練を要する。

●組み込み手順が繁雑なため、端面材等の損傷が発生しやすい。

●組み込み、取り付けが繁雑なため、機械の停止時間が長く生産に支障をきたす場合がある。

●グランドからメカニカルシールに変更するのに本体の改造及び、メカニカルシールフランジ等を要し改造費用が高価につく。

静止型アウトサイド式と

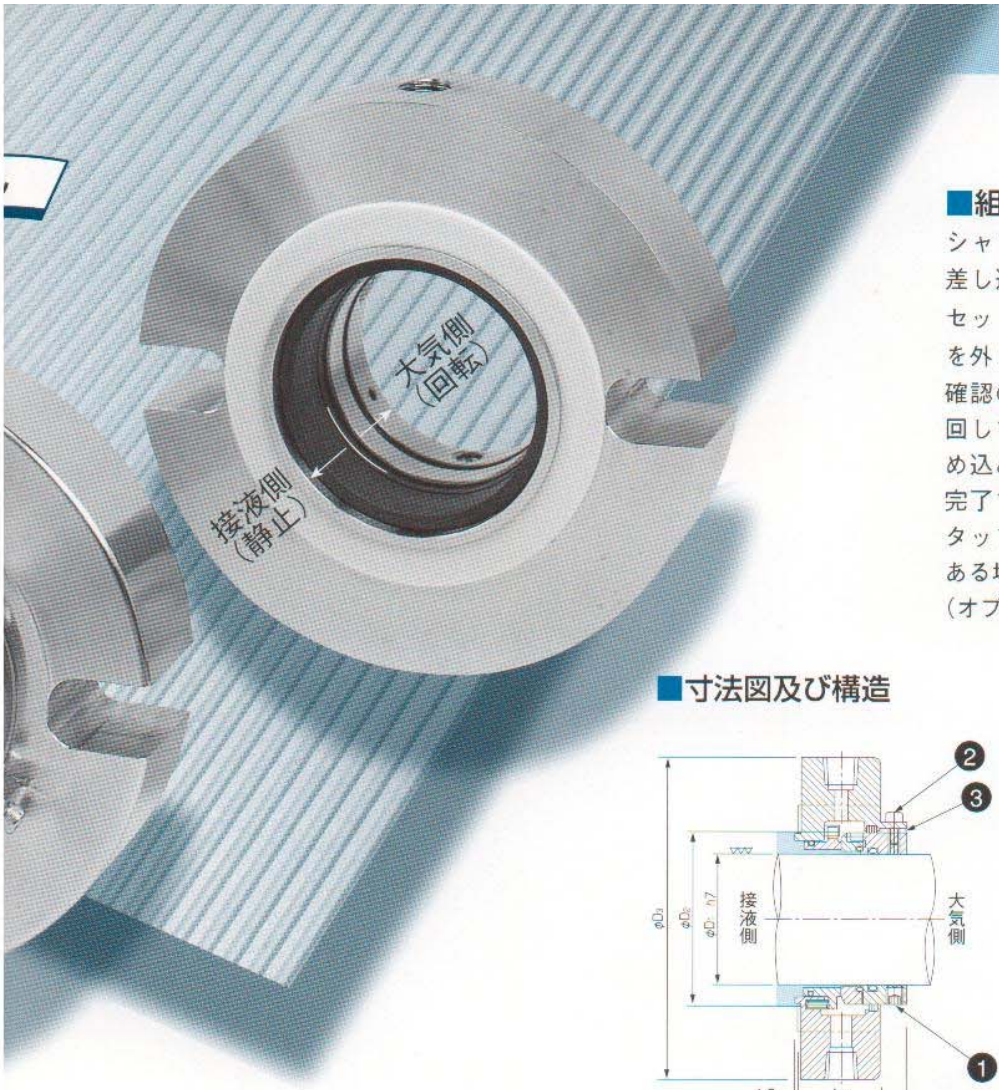
■静止型アウトサイド式メカニカルシール

●静止型アウトサイド式は、細部な部分が大気側にあるため、スラリーを含む液にも使用が可能になる。スラリーの量、大きさによりシャフトとメカニカルシールのすき間を大きくした物が可能である。（例　35／40、35／45）

●アウトサイド式のため、液溜りがほとんどなくそのため液が残留しにくい。

●スリーブ型でないためスリーブ又はシャフト寸法に合わせたサイズが準標準で可能。（φ34、φ39.5等）

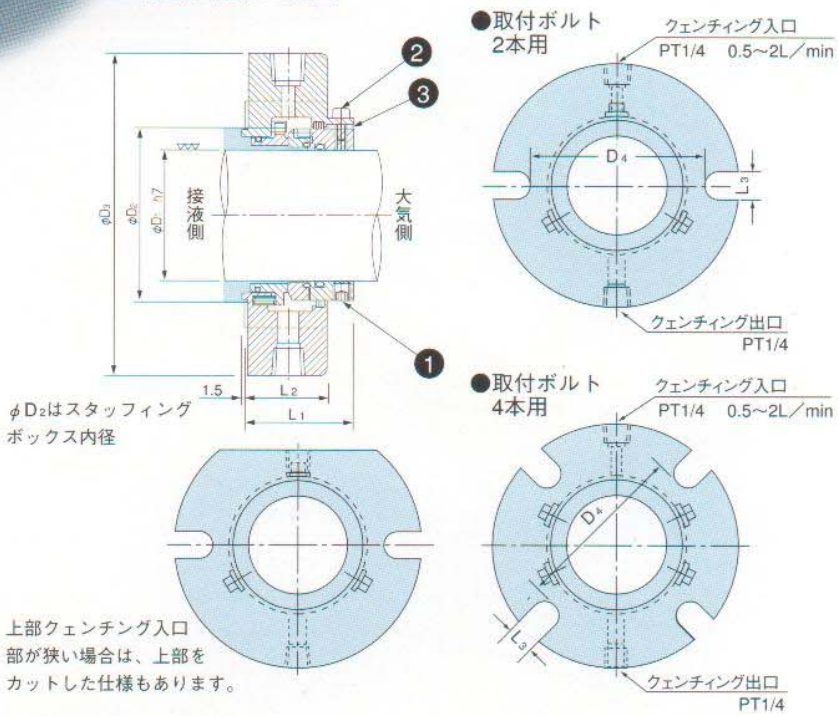
●特殊液仕様で特殊材を使用する場合端面材以外の部材の接液部が少ないため、接液部のみ特殊材をハメコミで製作することができる。



■組込方法

シャフトにカートリッジメカニカルを差し込みフランジボルト締め付け後❶セットスクリューを締め付け❷ボルトを外し❸スペーサーを抜いてください。確認のため組み込み後シャフトを手で回してもう一度セットスクリューの締め込みをして下さい。これで組み込み完了です。グランドで使用の場合、スタッフィングボックス端面に腐食等がある場合は、別途お申し付け下さい。(オプションでカラーもあります)

■寸法図及び構造



■寸法表 CL7型

呼び径	D_1	D_2	D_3	D_4	L_1	L_2	L_3
25	25	40～46	100	54	47.5	35.5	12
30	30	45～51	105	59	47.5	35.5	12
35	35	50～56	115	64	47.5	35.5	14
40	40	55～61	125	75	47.5	35.5	14
45	45	60～66	140	80	47.5	35.5	14
50	50	69～76	145	90	49	37	14
55	55	74～81	150	95	49	37	14
60	60	79～86	155	100	49	37	18
65	65	84～91	160	105	49	37	18
70	70	89～96	170	113	51.5	39.5	18
75	75	94～101	180	118	51.5	39.5	18
80	80	99～112	190	123	51.5	39.5	18
85	85	109～118	200	135	55	43	18
90	90	114～123	200	140	55	43	18
95	95	119～128	205	145	55	43	18
100	100	124～133	210	150	55	43	18

※予告なく寸法を変更する場合があります。

来型インサイド式の違い

■従来型インサイド式メカニカルシール

●インサイド式のため回転体が液中にあり、細部な部分にスラリーが入りやすく、そのため遊動リングの遊動性が損なわれ、スラリーを含む液に対応しにくい。

●インサイドはスリーブ式のため、中間サイズが製作しにくい。

●インサイドはスリーブ式のため、グランド等から組替への場合摩耗、キズ等でスリーブ、シャフト等を交換する必要が多い。

●特殊液の場合大部分の部品が接液部品のため、特殊材使用の場合非常に高価になる。

MECHANICAL SEAL PRODUCTS GUIDE

メカニカルシール

株式会社 ユーコウ産業